



おがさわら

議会だより

第 156 号



(母島)



(父島)

目次

一般質問	2
議案審議	5
委員会報告	6
出張報告	8
編集後記	10

無事に20歳を迎えた島っ子達。それぞれ色々な道を辿り、島に集まった瞬間でした。一人一人がスピーチをして、これまでとこれからを語る。親や友人、周囲への感謝の想いがつまっていました。そこにそれぞれのドラマがあり、小さな頃から知っているだけに目頭が熱くなりました。これからの活躍に期待します！

宮城ジャイアン

【一般質問一覧】

● 片股敬昌

1. いつまでも安心して暮らし続けられる島の取組み

● 清水良一

1. 扇浦、二子、小曲の今後の村としての考え方と計画について

● 安藤重行

1. 小笠原村地球温暖化対策の今後の取組みについて

● 宮城ジャイアン

1. 新型コロナワクチンについて
2. 太陽の郷、募集期間の短縮化について
3. 大型工事に伴う、燃料と宿不足について

● 稲垣勇

1. 母島の高齢入所施設の設置計画について

● 平野悠介

1. 新小中学校体育館 空調に対する見解を伺う
2. 父島保育園、保育現場の人手不足について

村職員が定年後も希望を持てる策は

いつまでも安心して
暮らし続けられる島を

村長…住宅政策をはじめ心豊かに
暮らし続けられる島の実現
に取り組む



片股 敬昌

問 村の職員は定年後もこの島に住み続けたいと願いつつも、住む家がなく半ば強制的にこの島を出て行かざるを得ないが、職員が希望を持てる策は。

答 村民のため長く働いてきた職員には引き続き村内で活躍して欲しい。そのため住宅政策をはじめとする諸政策を通じ、心豊かに暮らし続けられる島になるよう取り組んで行く。

問 シニアカーを利用する人からはどのような相談が寄せられているか。

答 駐車スペース、充電設備等に関する事です。

問 公共施設での充電場所の設置は。

答 専用の充電場所の計画はないが、緊急的な場合は役場、支所で対応する。置き場は管理者や自治会等にご相談ください。

問 シニアカーの試乗、講習は大変有意義であった。実施した感想は。

答 安全運転を心掛けるきっかけになったという回答をいただいている。

問 独居高齢者などへ緊急通報の機器貸し出しは考えているか。また欠員している職員負担を減らし、我々村民も協力して行く姿勢が必要。村の実情を最も理解している職員には定年後も村にとどまり、引き続き貢献して欲しい。

答 装置には緊急用電話機とペンダント型発信機があるが現在利用者はおりません。

土地利用計画変更に伴い扇浦地区（扇浦、小曲、二子、小港）の考え方と今後の分譲計画を伺う。

扇浦地区を安心してゆとりある魅力のあるエリアに！

村長…住宅問題は深刻、集落地域にしたこの地区で利用できる土地があれば購入し分譲政策を行っていく。



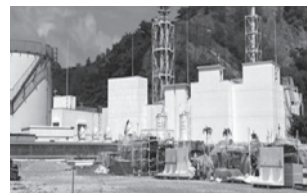
清水 良一

- 問** 持ち家率20%を切っている当村において村職員も任期が過ぎれば住む場所がなくなり、都住に住まう方も世代を超えた定住は難しい。土地の少ない当村においてこのエリアの活用方法は非常に重要。地域別の具体的計画は必要では？
- 答** 土地利用計画変更が第一歩、地域別の計画は現在ない。
- 問** 人口や持ち家率の目標は？
- 答** 1%でも増やせるように努力。
- 問** 魅力ある場所にする方策は？
- 答** 1区画でも多く分譲したいが、緑の多くあるゆとりのあるエリアにもしたい。
- 問** コミュニティスペースの確保は？
- 答** 園地等緑のあるスペースと扇浦交流センターを工夫して活用。
- 問** 避難所の確保は？
- 答** 扇浦交流センターは築30年が経過、どこかの時点で建て替えを、木造であるのでより安全な避難所へ。
- 問** 交通手段の充実は？
- 答** 交通の格差を解消するために新たな方策を模索する。
- 問** 地球温暖化対策を踏まえた計画を！
- 答** 引き続き検討する。

村の温暖化対策はCCSを活用し南鳥島沖合の海山へ圧入貯留しCO2を鉱物化する政策は！

島のCO2を早く取除きたい

村長…国のCCS基礎研究の成果を踏まえ海洋政策や国益の貢献等見守りたい！



安藤 重行

- 問** 温暖化対策でCO2削減に不可欠なCCS（地中に圧入貯留する技術）を南鳥島沖合の大きな海山に導入した時の対応や見解は。
- 答** CO2回収し圧入して貯留し、鉱物に固形化する技術は国家プロジェクトの基礎調査段階で、国の海洋政策や国益への貢献を視野に情報収集をし、今後の推移を見守る。
- 問** 圧入したCO2が万が一漏れた場合の生態系などへの影響や安全性について見解を。
- 答** 研究成果をしつかりと見極めながら安全はもとより海洋生態系はじめ環境への影響など注意深く見守り対応していく。
- 問** 硫黄島の地熱発電で水素等製造することとが可能だが、今後の硫黄島の活用等、村の計画に添った取組みを進めるべきでは。また、金属資源（レアアース等）採取やCCS導入に伴う税収は村に欠かせないが見解は。
- 答** 硫黄島は環境省、防衛省の連携で再生エネルギーの主力化等実証事業を進めていると聞いているので見守る。鉱物採掘する事業者からは鉱産税としての税収が見込まれるよう作業場の設置要請を考える。
- 問** 村には先進的取り組みをして欲しいのか、どのタイミングで村民に周知するのか。
- 答** 調査研究は内閣府のHPで公開しているので、基礎的な情報の提供方法を検討していく。

① 新型コロナワクチンについて

② 太陽の郷、募集期間の短縮 ③ 燃料と宿不足について

意見交換会での意見もとても重要です！ぜひ来てね！

①ファイザー社のワクチンを使用。村民だよりで広報。

②募集期間の短縮を検討する。

③大型工事の際に調整していく。



宮城 ジャイアン

問 意見交換会にて、10月から開始された新型コロナワクチン定期接種に対して不安の声が多かった。自己増殖型レプリコンワクチンを村は使うのか？予防接種健康被害救済制度の認定数が過去45年の全ワクチン認定数の倍以上の8,501件（死亡が915件含）となっている。村では相談はあるのか？接種者に事前説明すべきでは？

答 使用するワクチンのメーカーはファイザー社。レプリコンは使わない。村でも相談あり、申請も受理。事前説明は資料と村民だよりで告知。認定数などは比較できる数が示されていないので示せない。

問 太陽の郷、空室ができてから入居までに1〜2か月かかる場合がある。待機リストなどを作り、もっと短縮できないか？広報も村民だよりのみでなく、ホームページや掲示板も併用しては？

答 医療課、村民課、明老会との情報交換を続けていく。話合って検討していく。

問 夏以降に母島で軽油不足になりそうな事態が発生。大型公共工事が重なったことが原因。工事業者が多く、観光向けの宿不足は父島、母島で発生している。対策は？

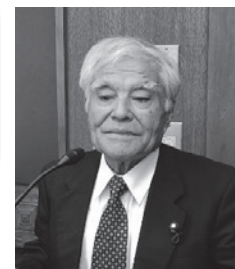
答 母島はピークを越えて徐々に緩和予想。今後も発注時期を調整しつつ、全体の工事量を注視していく。

父島はただの通過点。母島に最期まで住み続けられる政策を！

村民課長…施設整備の予定はない。

都住建て替えてシルバーピアを検討していく

母島で最後まで住み続けたい



稲垣 勇

問 令和5年度第3回定例会で、母島の高齢者入所施設についてグループホームの様な入所施設を、母島診療所横に建設中の施設内に追加してほしい。

答 施設内の追加は不可能。

問 その後の母島の高齢者入所施設を多くの島民の方々より望まれている。改めて、母島の高齢者入所施設を設置する方向性を。

答 母島に高齢者入所施設を整備する予定計画がないことは変わらない。在宅サービスを中心に高齢者への介護サービスを整えていく事も変わらない。

問 第2都住建て替え時のシルバーピアはどのような方向性か。

答 シルバーピアは村が事業運営である。村と都で検討していく。

問 昭和19年3月、国の政策で強制疎開で内地へ転々と居場所を変え、昭和48年ごろから旧島民定住促進を旗印に、父島より5年遅れで母島の復興が始まり、2戸建住宅に入居が始まった。住み慣れた母島で、親しくしている方もいる母島で住み続けたい。小規模でも良い施設を望まれる。急用で内地へ行き又母島に帰ってくる。父島はただの通過点でしかなく、父島の施設に入るのも内地の施設に入るのも変わらない。最後まで母島に住み続けられる政策を望む。

冷房の無い体育館、万一の時の責任の所在は。

子供の安全は
守れるのか

教育長…責任は教育委員会と村にある。適切な指示指導を行っていく。



平野 悠介

その他の質問▶ 保育園の人手不足について

- 問** 新体育館に冷房が無いが判断理由は。
- 答** 小笠原は猛暑日がないことに加え、陽射しを遮れば比較的涼しい。新体育館は断熱性能が向上し、換気設備も動作することで、現在の体育館より改善が見込まれる。
- 問** 猛暑日がなくても小笠原は暑い。安全に体育授業が実施されることが重要だが見解は。
- 答** 季節や実施場所等に十分配慮した年間指導計画とするように指示していく。
- 問** 冷房が無い事で児童に健康被害が発生した場合は、国家賠償法に基づき賠償責任も問われるが責任の所在は。
- 答** 十分な配慮、対策を行った上でも健康被害等が発生した場合の責任は学校設置者である小笠原村教育委員会及び小笠原村にある。そのような事態にならないよう適切な指導を行う。
- 問** 保育士、補助員の退職で父島保育園は人員不足。影響と確保の取り組みは。箱があっても職員不在では保育は成り立たない。保育園の人手不足も危機感を持って臨まれたい。
- 答** 各年齢に合わせた活動が計画通りにできない状況。保育士確保は全国的に厳しいが、補助員の確保と併せて努力続ける。

令和6年第4回定例会議案等審議（開会日：12月17日、18日）

【全議案等、賛成で可決、認定されました。】

- 令和6年度小笠原村一般会計補正予算(第3号)(専決処分)
- 小笠原村職員定数条例の一部を改正する条例
- 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
- 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 小笠原村村税条例の一部を改正する条例
- 小笠原村立学校設置条例の一部を改正する条例
- 小笠原村ケーブルテレビ条例の一部を改正する条例
- 令和6年度一般会計・特別会計・事業会計補正予算計7件
- 東京都島しょ町村一部事務組合の共同処理する事務の変更及び東京都島しょ町村一部事務組合同規約の変更について
- 小笠原村社会福祉協議会人件費予算に関する請願について
- 議員の派遣について
- 小笠原村議会委員会条例の一部を改正する条例
- 小笠原村議会会議規則の一部を改正する規則

母島小中学校の義務教育学校に向けての条例改正がされました。

オンラインでの委員会等開催するため条例、規則改正をしました。

令和6年第4回定例会の運営、請願、議員の派遣、条例・規則改正等について及び継続審議の議論が行われました。小笠原村議会委員会条例の一部を改正する条例(案)、小笠原村議会会議規則の一部を改正する規則(案)については、全委員一致で本会議において審議することを決定。第3回定例会にて試験的運用した「通信機器の持ち込み」は、試験的運用を終え、今後、運用することとなりました。また、「議会報告会・意見交換会」については、引き続き、調査することとなりました。

総務委員会 12月18日

片股敬昌 委員長 平野悠介 副委員長

小笠原諸島世界自然遺産

世界自然遺産関連について以下の報告、質疑がありました。

○主な会議予定

9月18日

小笠原諸島世界自然遺産地域 地域連絡会議
(第1回)

11月8日

小笠原諸島森林生態系保護地域部会 (第1回)

12月3日

小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会
(第2回)

12月20日

小笠原諸島世界自然遺産地域 地域連絡会議
(第2回) 母島開催 (予定)

【問】 地域連絡会議第2回母島開催での会議内容は。
(宮城)

○村民向け普及啓発事業

母島の森・森づくり体験イベント

9月16日実施 参加者：16名

西島外来植物駆除ボランティア

11月17日実施 参加者：17名

○ペット条例について

10月からおがさわら丸東京就航日にて竹芝客船ターミナルにおいて「動物の持ち込み申告」受付業務試行的運用10～11月実績報告。

【問】 持ち込みに伴う事前周知方法はどのように考えているか。(宮城)

【問】 実績に観光客による持ち込みがされているが、島外に持ち出されたか確認したか。(平野)

○ネズミ対策(平島他)について

平島：10月17日までにネズミの撮影記録なし。

丸島・二子島：10月31日までにネズミの撮影記録なし。

【問】 モニタリングするためのカメラは何台設置したのか。(宮城)

○南島におけるグリーンアノール捕獲探索について

令和6年4月に南島で1頭のグリーンアノールが撮影された以降、捕獲はなし。

【問】 トラップ設置以外の対策は。(宮城)

○世界自然遺産関連地域連絡会議

11月19日 第3回世界自然遺産5地域会議
(村長出席)

大阪・関西万博参加事業概要説明。

【問】 子ども作文コンクール最優秀賞は、小笠原から小学生、中学生各1名で良いか。(宮城)

住宅政策

東京都小笠原住宅「母島沖村アパート」公募再開、住宅モデル事業について報告、質疑がありました。

【問】 住宅モデル事業への申込者が11名。うち、重複者はあるのか。(清水)

母島保育施設について

令和6年度完了予定の母島保育施設整備において、令和7年9月末以降に変更する工期延長について報告、質疑がありました。

【問】 村内工事における発注時期の調整など東京都と行っているのか。(杉田)

令和6年9月の委員会以降の硫黄島に関する動き、硫黄島に係る連絡会議について報告がありました。

遺骨収集帰還事業について

第3回：11月27日～12月11日 収容柱数33柱

第4回：1月29日～2月12日（中止）

【問】内地在住旧島民の参加はあるのか。（杉田）

訓練について

FCLP訓練、HRS訓練、潜水訓練、LCAC（エアークッション艇）訓練、掃海訓練

その他

・硫黄島島民平和祈念墓地公園管理事業
（年6回実施予定）

第3回：9月14日～19日（実施）

第4回：11月22日～27日（実施）

・硫黄島訪島事業

11月27日（実施）

航空機による日帰り訪島

（対象：旧島民、参加数：48名）

・硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参（東京都主催）

10月29日～30日（実施）

（対象：旧島民、参加数：44名）

・硫黄島戦没者追悼式（東京都主催）

1月16日（実施）

（対象：遺族、参加数：42名）

・硫黄島慰霊巡拝事業（厚生労働省主催）

第1次慰霊巡拝 11月13日（実施）

（対象：遺族、参加数：76名）

・基地交付金・調整交付金、特定防衛施設周辺整備調整交付金決定

基地交付金・調整交付金：135,322千円

特定防衛施設周辺整備調整交付金：60,362千円



硫黄島島民平和祈念墓地公園



硫黄島訪島事業（11月実施）

小笠原航空路開設推進特別委員会 12月18日 稲垣勇 委員長 平野悠介 副委員長

令和6年9月の委員会以降航空路開設推進に関する動きについて、就航候補機の開発中止、来島者の視察、村長の陳情活動等について報告がありました。

就航候補機の開発中止について

小笠原航空路への就航候補機「ATR42-600s」の開発中止について、11月3日に発表されました。

来島者視察について

小笠原諸島振興開発審議会竹林幹雄委員が10月26～29日で来島し、空港建設候補地洲崎地区を視察されました。

議会運営委員会 令和7年1月6日

清水良一 委員長 宮城ジャイアン 副委員長

令和6年第4回定例会にて制定した小笠原村議会委員会条例の一部を改正する条例、小笠原村議会会議規則の一部を改正する規則におけるオンライン会議、オンライン質問の実施に関する申し合わせを決定しました。

議員出張報告

「JFA こころのプロジェクト」 夢先生視察

安藤 重行

日本サッカー協会の「DREAM～夢があるから強くなる～」をスローガンに活動していただいている事業で、サッカー現役選手やOB／OGなどの関係者や様々なスポーツの一流アスリート、芸能人等が夢先生として派遣され、「夢を持つこととその夢に向かって努力すること」の大切さを伝えていく【夢教室】がスタートしたとのことで、小笠原には2010年度から父島・母島の小学生に実施していただいている。今年で17回を迎えている。近年小笠原のこども達のサッカー熱は大きなものとなっている。外遊びの重要性から考えても、大変大きな成果が上がっている。学校が終わった放課後サッカースタイルで奥村グラウンドに子どもたちだけで集まって、サッカーの練習姿が毎日のように見られる。いつの時代も「あこがれ」から読み解けるものも多くある。こどもたちはスポーツ等あらゆるジャンルで「マネ」をすることから覚えていく。「ユメセン」の取組みは大変意義のある取組で事業成果は大きい。その中でも小笠原ゆえの派遣課題がある。それは派遣日数の長さで多忙な一流アスリートが来ることを難しくしている。飛行機が飛べば解決するが簡単ではない。多くの企業が支援していただいて実施されている。こども達の成長にも良い結果が生まれている。大変ありがたい。これからも継続していただきたいところより願っている。



町田バイオエネルギーセンター視察

宮城 ジャイアン

東日本で唯一となるバイオマス施設を備えた、バイオエネルギーセンターを視察してきました！ここは2022年1月から稼働している町田のゴミ処理施設です。可燃ごみ、不燃ごみを処理し、その処理熱を利用した発電、可燃ごみから仕分けされた生ごみからバイオマスエネルギー発電を行っている施設です。バイオマスの稼働は火災の影響でお休みしていましたが、沢山のお話を聞き、見学させてもらい、最先端の技術の結晶を知ることができました！この施設は24時間稼働していて、その発電でほとんど施設の電気は賄えているそうです。施設は様々な見学できるように作られていて、ガラス張りで作業工程が子供でも安全に見れるように丁寧に作られていました。町田市43万人のゴミを処理するのは並大抵のものではなく、町田市ではまだプラごみのほとんどはリサイクル資源ではなく、焼却しているそうです。小笠原はこの春からプラごみ資源回収をしっかりと始めましたが、小規模なほど、次の段階にシフトしやすいと言えます。焼却灰はエコセメントの原料にして有効活用しているそうです。まだ使える家具を安く販売しているコーナーもとても良くて、参考になりました！



新人議員研修～琵琶湖の畔にて～

平野 悠介

研修『新人議員のための地方自治の基本』受講のため、11月16日～27日の日程で出張してきました。研修は滋賀にある全国市町村国際文化研修所(JIAM)が主催、18日から20日までの3日間、北海道から沖縄まで全国の町村議員120名が集まりました。新人議員が対象とはいえ、当選後3年目の方やJIAMでの研修は7回目という方もおり様々な刺激を頂きました。同年代の交流もあり、各地域の取り組みの情報交換に繋がりました。充実した3日間でしたが、特に、吉田利宏元衆議院法制局参事による『条例と政策の審査・立案』の講習では、条文の構成や文言が持つ意味を考え、講義後のワークショップでは課題の条例策定を1チーム6名で議論して作成、その条文の意図の発表を行いました。他チームの考え方も知ることで決定までのプロセスの違いや着目点の違いなど、様々な視点を知る良い経験となりました。また、参議院の「政治改革に関する特別委員会」に参考人として意見を述べた大山礼子名誉教授(駒沢大学)の講義では、女性の議会参画に触れられました。女性枠を作るクォーター制は憲法上不可能とのお話でしたが、1回の投票で複数人に投票する制限連記制は可能とのお話もあり、今後の可能性を感じる内容でした。今回の研修での内容を今後の活動に活かしていきたいと思います。

議長出張報告



出張日	出張用務
10月21日	北京市区人民代表大会友好代表团歓迎会出席
10月25日	日本サッカー協会「こころのプロジェクト」、東京味フェスタ2024視察
10月28日	全国市議会議長会基地対策協議会関東部会総会・視察出席
10月29日	全国町村議会議長会全国大会出席 東京都島しょ議長会臨時総会出席
11月14～15日	全国町村議会議長会先進町村調査(北海道浦幌町)
11月17～18日	長崎市(嶋谷市左衛門関連)視察・表敬
11月19日	全国離島振興市町村議会議長会第42回離島大会出席
11月27日	令和6年度硫黄島訪島事業出席
12月24日	全国離島振興協議会離島予算対策本部出席



硫黄島訪島事業(生活跡)



全国離島振興協議会

硫黄島旧島民48名の方々にご一緒させていただき、硫黄島訪島事業に出席してきました。今回の訪島事業では、慰霊にとどまらず、戦前の生活跡や小学校跡地を巡ることが出来、短い時間ではありましたが、旧島民の方々は、故郷硫黄島の地で過ごすことができました。事業実施にあたり、ご協力いただきました硫黄島自衛隊員の親切丁寧な対応に御礼申し上げます。

議長 池田望

令和7年第1回定例会会議日程表（予定）			
月日	開始時間	会議名	内容
3月11日（火）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
3月12日（水）	午前 9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後 2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後 3時	本会議	議案審議等
3月18日（火）	午前 9時	令和7年予算特別委員会（仮）	予算審議
3月19日（水）	午後 2時	令和7年予算特別委員会（仮）	予算審議
	午後 3時	本会議	議案審議、予算採決

現時点での会議予定です。会議日程については変更がある場合がありますのでご容赦ください。

● 議会映像の配信について

TV 11チャンネルで中継放送、Youtube でライブ配信を行います。
過去の議会録画中継は、アーカイブ配信しています。

【小笠原村公式チャンネル】

URL：https://www.youtube.com/@boninlive5930/streams



議会映像配信

● 会議録について

会議での発言内容など詳しく知りたい時は、会議録をご覧ください。

次の施設で閲覧できます。

○村役場議会事務局

○村役場母島支所

○地域福祉センター図書室

○母島村民図書室

また、パソコンやスマートフォンなどで見ることもできます。



会議録

小笠原村公式サイト → 議会事務局 → 会議録で 検 索

編 集 後 記

クジラが帰ってくる冬のシーズンいかがお過ごしですか？

思い起こせば、2024年最後の議会の直前、おがさわら丸係船機器の故障により12月17日父島着便の「おがさわら丸」が欠航という情報が入った。さらに錨の調達や修理に1月までかかることから航行がしばらくの間できなくなるという恐れがあり、東京都では代替船の検討も行われていた。そんな中、村長をリーダーに関係諸機関への素早い働きかけと国交省の検査、指導の下、欠航するはずだった便を12月19日14時東京発、20日父島着発で運航することとなり小笠原への影響は最小限で抑えられた。

この事件で私たち島民は運命共同体であり、多くのライフラインをこの「おがさわら丸」に頼っていること、そして地震や津波のような自然災害だけでなく「おがさわら丸」の故障だけでも孤立化する恐れのある場所に住んでいることに気づかされた。

改めて食料の備蓄や自給率のアップをシビアに考えていく必要性を感じた。

ひと昔前ならこの島にたどり着くだけでも奇跡だったわけだが、おがさわら丸のおかげで内地と同じような暮らしができ1週間に一度東京へも行くことができる。

そして今年もこの島で育った20歳の若人たちが帰ってくることができ、彼らのスピーチも聞くことができた。当たり前のような毎日の奇跡に感謝！

清水 良一

● 議会だより編集委員

安藤重行 清水良一 平野悠介 宮城ジャイアン

問い合わせ先 小笠原村議会事務局 電話 2-3118 FAX 2-3208 メール gikai@vill.ogasawara.tokyo.jp